



あざみ野だより

横浜市立あざみ野中学校
発行責任者 校長 我妻 智之



『今日聞いた人は、明日語れる人に』

校長 我妻 智之

6月17日(火)から19日(木)まで、3年生と共に九州修学旅行に行ってきました。

今回の修学旅行では、

- ①雲仙普賢岳のふもと島原市を訪問しての防災学習
- ②被爆地である長崎での平和学習(見学、講話、平和集会)
- ③異国情緒あふれる長崎市内での班別自主行動
- ④穏やかな湾内に浮かぶ牧島でのクラス対抗ペロン競争

など、たくさんのメニューに3年生は取り組んでいました。
今回はそこで出会ったお二人のことを紹介させていただきます。
一人目は①でお世話になったガイド役の石見 剛さんです。



↑旧大野木場小学校跡(後ろの山が普賢岳)

初日は長崎空港に到着後、バスで島原半島に移動し、火砕流の被害にあった「旧大野木場小学校跡」「土石流被災家屋保存公園」

「雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)」の三か所を見学しました。その際に私が帯同するクラスの案内役を務めた方が石見さんです。現地で合流した際に、「お願いがあります」と言って「一つはしっかり見て、勉強してください。もう一つは、ここで見て感じた事を横浜に帰ってから3人の人にお話ししてください。」とおっしゃったのです。「3人の人に～」というフレーズが心に残りました。何かを託されたような気がしたからです。見学した施設は、いずれも自然の威力の凄まじさを感じさせるものでしたが、その場に立って、石見さんがきちんと一つひとつ丁寧に説明をしてくださった姿が印象に残っています。

もう一人の方が、②二日目の原爆資料館で講話をしてくださった城臺美彌子さんです。城臺さんが被ばくしたのは6歳のとき。その後、小学校教諭として平和教育に取り組み、退職後は自らの体験を語り続けてきました。ご自身の家族を亡くしたつらい経験のことや、映像を用いながら分かりやすく当時の様子をお話ししていただきました。そして、今でも世界では戦争の脅威は続いており、自分が語り部となって話をしていくことで、できるだけ多くの人にこの現状を知ってもらいたいということと、「今日の話聞いて学んだことを、明日からは皆さんが語れるようになってほしい」というメッセージをあざみ野中の生徒たちにいただきました。

↓長崎原爆資料館ホールにて城臺さんの講話を聴く



普賢岳の大火砕流発生から34年、原爆投下からは80年の時が経っています。これらの記憶を風化させてはいけないと、悲しかったことやつらかったことを今でも語ってくださる人たちの想いを、どのように受け止めれば良いのでしょうか。

お二人の言葉に共通しているのは、『記憶の伝承』です。「帰ったら3人の人に」「明日からは皆さんが語れるように」というのは、まさにこれらの事を知った者は次へとつなぐ「語り部」になってほしいということなのではないでしょうか。それは昨今問題になっているSNSにおける「拡散」とは違います。当事者の声を直に聴いて、現地を自分の目で見て、そこに流れる空気を感じて、つかみ取った「実感」を語れる人にならなくてはなりません。もっと知りたいと考え、深く学び続ける必要もあります。それが想いを発信する者の責任です。今回の体験をした3年生の皆さんが大人になる過程で、こうした力を身につけてくれることを望みます。

Project Ashigara Adventure 2!

1学年主任 池田 悠

5月8日(木) 天気に恵まれ、1年生の校外学習『PAA2!』が行われました。場所は、南足柄市にある「県立21世紀の森」です。

総勢11名のファシリテーター(進行役)の方に迎えられ、学級委員を中心に開校式を行いました。その中で『1日楽しく遊んで、よいクラスに。みんなで協力していこう!』とファシリテーターから話があり、この目標をクリアするために5つの武器を渡されました。



『本気(マジ)で、みんなで、安全に、話す、聴く』この5つを駆使して、午前・午後の時間をフルに使って、複数の課題解決に取り組みました。一つひとつの課題は難しくはないのですが、仲間と協力しないとクリアできないものばかりでした。成功をおさめるためには、失敗を重ねて、どこをどう直していけばよいかをみんなで共有して再度トライを繰り返す。そのときに、率先して意見を出してくれた人、意見は出せなかったけど、行動で示した人、みんなを一つにまとめようとしてくれた人などなど、たくさんの方がいろいろな役割を果たしていました。課題解決に「成功 or 失敗」はありましたが、その過程で自分自身と周りの仲間がどう頑張ったのか、支え合うことができたのかを学べた1日になったと思います。この行事を通して手に入れたことを大切に、これからの学校生活も送っていきましょう。

自然教室を終えて

2学年主任 古田 理恵子

5月28日(水)~29日(木)、2年生は西湖方面で自然教室の活動を実施しました。

1日目は昼食を兼ねてほうとう作りを行いました。火起こしや調理に不慣れな生徒も多く、役割を超えて、協力する必要があったことも、結束を深めることができた要因だったと思います。午後には「宝探しゲーム」に取り組みました。班員とともに宝の地図を解読し、謎を解くというチーム内の協力体制がカギとなるチームビルディングプログラムです。今回、初めて話をするようになったという生徒同士も協力し合い、様々なアイデアを出し合うことで、謎を解いていこうと取り組みました。コミュニケーションを積極的に取り、適切な情報共有をすることで、チームワークが活発になっていく様子を見ることができました。

夜はキャンプファイヤーを行いました。「火の神」が火をつける厳かな儀式的行事から始まり、ゲームや生徒の出し物など、後半は大いに盛り上がることができました。友達を認め受け入れる姿勢や活動に前向きに取り組もうとする姿勢を見ることができ、活動を自分たちの力で盛り上げようとするのができたのは、大きな成果だったと思います。

2日目は、カヌー体験、樹海散策、牧場体験、魚つかみのコースに分かれ、体験学習を行いました。それぞれが自然の中で、横浜ではなかなか体験することが難しい活動を行うことができたと思います。

2日間の活動を通し、時間やきまりを守った規律ある集団生活を送ることができたのは大きな成果だったと思います。また普段の日常生活では体験することが少ない、自然とのふれあいや自然の中での体験活動ができたことは、貴重な経験になったことと思います。

2日間の活動を通し、時間やきまりを守った規律ある集団生活を送ることができたのは大きな成果だったと思います。また普段の日常生活では体験することが少ない、自然とのふれあいや自然の中での体験活動ができたことは、貴重な経験になったことと思います。

今後は生徒が主体的に考え、自ら活動を作り上げていく力をつけていってほしいと思います。班別自主行動やクラスでの活動など、生徒が積極的に行事に関わり、作っていく、そんな生徒集団をつくっていききたいと感じています。

「3学年 修学旅行を終えて」『Memory ～えいえんに残る楽しい旅に～』

第3学年修学旅行担当 白石 至暁子

3年生最大の宿泊行事、長崎修学旅行は、直前の天気予報の雨マークに心配の声も上がっていましたが、天気にも恵まれ、無事に3日間の行程を終えることができました。

1日目は、島原半島の雲仙で防災学習を行いました。1991年に大規模な火砕流が発生し、多くの犠牲者を出した雲仙普賢岳。雲仙岳災害記念館では、実際の記録や体験型の展示を通じて自然災害の恐ろしさを学ぶことができました。被災校舎、土石流被災家屋保存公園では、ガイドさんの説明を真剣な表情で聞いていました。

2日目は、平和学習から始まりました。原爆資料館では、当時の写真や遺品を目にし、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを感じている様子でした。資料館内のホールで、当時6歳で被爆した城臺美彌子さんのお話を聞きました。当たり前な平和な日常を送れることの大切さに改めて気づき、悲劇を繰り返さないためにも、戦争の記憶を語り継いでいく責任について考えるきっかけとなりました。その後、平和記念公園での平和集会では、修学旅行実行委員会が平和記念像の前で平和宣言を読み上げ、全員で平和を祈って黙とうを捧げました。宣言の中にもあったように、戦争を知らない世代だからこそ、戦争について学び、考え、次の世代に伝える役割を担ってほしいです。2年生の頃から作成してきた折り鶴は、この「平和祈念像」の右にある「折り鶴の塔」に奉納しました。



平和集会の様子・平和祈念像

午後は、楽しみにしていた班別自主行動の時間です。事前に立てた計画を元に、時には臨機応変に対応しながら長崎市内をグループで散策しました。名所や食事を楽しんだあとは、ホテルへの400段の階段が待ち受けていました。額に汗を浮かべつつ、全員で協力して無事にホテルまでたどり着くことができました。仲間との絆がより深まったことと思います。

乗船前に説明を聞く あざ中生



3日目は青空の下、ペーロンという伝統的な船でクラス対抗レースを行いました。担任の名前で掛け声をしているクラスもあり、息を合わせて力強くオールをこぐ姿が印象的でした。ちなみに優勝は3回のレースすべてで1位をとった5組です。記念にオールを1本贈呈されました。

その後はバスで福岡県に移動し、学問の神様「菅原道真」をお祀りする太宰府天満宮へ。現在、本殿は修繕工事中だったため、「仮本殿」への参拝でした。お守りを購入したり、おみくじを引いたりしました。参道でお土産や飛行機内でのおやつも購入し、後ろ髪を引かれながらも福岡空港へ向かいました。

この旅行を前にして、修学旅行実行委員を始めとする赤学年の生徒の皆さんには、修学旅行がゴールではないと伝えていました。修学旅行までに築いたものを当日発揮することを目標に、日々の生活を送ることが大事だと。その結果今回の修学旅行では、互いに声を掛け合いながらマナーやルールを意識して過ごすことができたと思います。また、過去の戦争や災害からの教訓を次世代に繋いでいく重要性を実感しました。長崎の文化や歴史に直接触れることで、教室では味わえない貴重な学びの機会となりました。

今回の修学旅行では、行く前から保護者の方からも、たくさんのご協力やご助言をいただき、大きな事故もなく、実施することができました。本当にありがとうございました。『Memory ～えいえんに残る楽しい旅に～』というスローガンで掲げたように、心に残る体験がたくさんできたと思います。今回学んだことや、発揮することができた一人ひとりの良いところ、そして、新たな課題を忘れずに、次の目標に向かって歩いていきたいです。

《部活動・教科の記録》（6月21日現在）

【女子バドミントン部】〈市総体 団体戦〉

- ・ 1回戦 あざみ野中 3—0 早渕中 （@あざみ野中体育館）
- ・ 2回戦 あざみ野中 2—0 都田中 （ 同上 ）

【サッカー部】〈市総体〉

- ・ 1回戦 あざみ野中 2—0 日吉台中（@日吉台中グラウンド）

【ソフトテニス部】〈市総体 青葉・都筑地区大会(個人戦)〉

- ・ 男子 第5位：3年生ペア
- ・ 男子 第5位：2年生ペア
- ・ 女子 第5位：3年生ペア

【体操部】〈横浜市民スポーツ大会〉

- ・ 女子段違い平行棒 第3位 3年生 女子平均台 第4位 3年生
- ・ 男子鞍馬 第2位 2年生 男子鉄棒 第2位 2年生

意志ある
ところに
道はできる
(竹下 育男)



あざみ野中学校区学校・家庭・地域連携事業実行委員会

総会

6月20日(金)、本校図書館において、「あざみ野中学校区 学校・家庭・地域連携事業実行委員会」の総会が行われました。これは、略して「学家地連(がっかちれん)」と言われるもので、学校と家庭と地域をつないで、お互いに協力し合って、児童生徒の成長を支えていこうという会議です。

学校側としては、あざ中だけでなく、あざみ野第一小・あざみ野第二小・黒須田小からも教職員の参加がありました。PTA からも代表が参加し、地域からは、各自治会長様、そして、保護司会、民生委員児童委員、主任児童委員、スポーツ推進委員、区役所といった様々なジャンルの方たちにご出席いただきました。多方面にわたる大人たちが連携することで、いろいろな角度から子どもたちへの支援の在り方や、貴重な体験の場の提供ができるのではないかと、という議論が行われましたことを報告いたします。

具体的には、まずは大人たちが様々な立場や役割を越えて連携していくことや、人と人をつなぐ「あいさつ」の大切さが話題になりました。当日、出席していただいた方からは「学校に来るたびに気持ちよくあいさつしてくれて嬉しい」という言葉もいただきました。また、各地域で夏祭りが予定されており、そこでの小学生や中学生に発表の機会やボランティアとして、お祭りのお手伝い体験をさせていただいたりすることが確認できました。地域の方たちの温かさを感じるとともに、子どもたちの積極的な参加を期待しています。



《留守番電話の設定について》

本校では下記の通り、勤務時間外の留守番電話対応を行っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。なお、留守番電話は録音機能がございませんのでご承知おきください。

【課業日】 19時～翌朝7時00分 留守電対応

【休業日(土曜日、日曜日、祝祭日等)及び閉庁日】 全日留守電